

平成 26 年度浜松創造都市推進会議 第 1 回音楽専門部会 議事録

日 時：平成 26 年 7 月 31 日（木）午後 6 時 00 分～午後 8 時 00 分

場 所：浜松市役所本館 5 階 庁議室

出席者：梅田英春委員、峯郁郎委員、中村勝也委員、相原靖委員、
岡部比呂男委員、小林昌史委員、土屋史人委員、初村則子委員、清水和宏委員、
高橋由美子委員、伊熊元則委員、後藤康志委員、嶋和彦委員
(オブザーバー)

影山伸枝創造都市推進担当課長、瀧下且元産業振興課長、森田孔二文化政策課長

報 道：1 人（静岡新聞）

傍聴者：1 人 川嶋朗夫担当部長

事務局：鈴木三男課長補佐、竹本澄生グループ長、小川由利子（文化政策課）

影山元紀グループ長、宮木広由、辻昌孝、外山裕太、藤谷佳澄

(以上、企画課創造都市推進グループ)

1 開会（事務局 鈴木）

2 挨拶（森田文化政策課長）

3 委員紹介（事務局 鈴木）

- 委員の委嘱については、以前にお願いたとおり、今回用意した委嘱書をもって正式にお願いしたい。任期は 2 年の平成 28 年 3 月 31 日までとなる。

席順に 各委員から自己紹介を行う

オブザーバーから自己紹介を行う

事務局から自己紹介を行う

4 議事（事務局 鈴木）が進行

(1) 浜松市創造都市推進会議の設置と音楽専門部会について

資料 1 「浜松市創造都市推進会議」の説明（企画課・影山グループ長）

- 「浜松創造都市推進会議」の規約において、「浜松創造都市推進会議」の会長が専門部会の部会長を会長が指名するとなっている。「浜松創造都市推進会議」の根本会長からは「音楽専門部会」の部会長を梅田委員にと指名いただいたので、梅田委員にお願いしたい。

(梅田委員)

- 指名を受けた以上は、皆様の力を得て、求められる良い案を市に出していくことを目指し、委員長としてとりまとめをしていきたい。また、会議の進行もスムーズに行いたい。

(梅田部会長) が議事進行

(2) 音楽専門部会の検討課題とスケジュールについて

資料2 音楽専門部会の検討課題とスケジュールについての説明 (事務局 鈴木説明)

(梅田部会長)

- それでは、事務局からの説明に対して委員の皆様から質問等をお願いしたい。
- また、これまでの説明は、事務局から委員の皆様へ既に説明してあるか？

(事務局 鈴木)

- 概略は既に説明してある。

(岡部委員)

- 浜松市が「楽器のまち」から「音楽のまち」に向けた方針を出し10年以上たっている。今回のユネスコの音楽部門の認定を目指すにあたって、いいキッカケになればいい。お願いしたいのは、打ち上げ花火のような単発なイベントにするのではなく、音楽創造都市になるために、音楽人口を増やし、音楽専門家を目指す学生が増えて、音楽愛好家が住んでいる街を目指すなど総合的な議論をさせていただきたい。

(小林委員)

- 「浜フィル」でよく議論しているが、浜松市で吹奏楽やクラシックのコンサートが頻繁に行われるが、コンサートが終わるとみんな帰ってしまう。浜松市も街中のにぎわいのために、いろいろ取り組んでいるが、なかなかうまくいっていない。
- 音楽に限らず、イベントをうまく活用して盛り上げてもらいたい。例えばコンサートを9時まで行なうなら、飲食店は10時まで営業するなど。また、「はまぞう」さんがテテルというコンサートとショップの割引を行うことを実施している。この会議で音楽と産業の活性化も議論できればいいと思う。

(清水委員)

- 私は市民音楽祭の主催という立場にいるが、音楽文化都市を広めていくという背景には、市民に根付いた音楽文化があってこそだと思う。市民が楽しめる音楽文化、市民から感じるができる音楽文化があってこそ、はじめて地域に根の張った音楽文化都市といえると思う。
- やらまいかミュージックフェスティバルも8回目になるが、我々も産業の活性化を考えている。例えば、昼のフェスティバルだけで終わりではなく、夜フェスティバルとしても行い、地元のお店に協力してもらい、昼のフェスティバル出演者が出演して情報提供してもらおうなど。
- ほかに、例えば「OKステージ」をつくり、夜だと苦情がでて、屋外で音楽ができないが、このステージであれば許可をとれば、音楽の演奏がオーケーとなる場所など、外向きだけでなく、地元の内向きの浜松市に根づいた音楽文化振興ができればいい。こうした具体的な話し合いができれば、足場が固まって、いろいろな情報発信ができるのではないかな。

(土屋委員)

- 高校生から進路相談で音楽をやりたいが、東京や大阪の音大など遠くに行くのは勇気がないなど相談を受ける。今回の専門部会の具体的な検討内容の例に音楽高等教育機関の設置がある。なかなか現実的には難しいとは思いますが、非常に期待している。
- 最近では地方に残って、一旗上げようという子供たちが増えている。浜松ではアマチュア演奏家には、手厚いサポートがあるが、プロになると仕事・就職先などの活躍の場がない。吹奏楽だけでなく、ジャンルを超えた音楽すべてにおいて、人材育成だけでなく、その後の活躍する場所が出来ればいい。

(中村委員)

- 音楽の専門家が集い、浜松に住まう、ということを考えてと高等教育・学校がキーワードになる。既存の音楽大学は東京にもある。せっかく文化芸術大学が浜松にあるので、音楽の特色ある一学部をつくるのもいいのではないかと。分野によっては企業も協力することが出来る。教える方も学ぶ方も浜松に住めば、良いイベントが出来る。
- また、浜松は音楽のまちづくりを行っているので、観光コンベンションを活用して、音楽文化を元に交流人口を集客する事は音楽のまちづくりや、まちなかの賑わい創出にも繋がる。市民も参加して手軽に楽しめる場があったらいい。

(梅田部会長)

- ざっくばらんにいろいろな意見をいってもらうことが、今後のいい計画に繋がる。浜松の外からきた人には、「楽器のまち」から「音楽のまち」になってきており、「楽器のまち」が薄れて、「音楽のまち」が前面にでていくように聞こえる。ここ浜松は、「楽器のまち」と「音楽のまち」なんだと、もう一度捉え直すことが必要。
- 「ものづくり」というと「労働」に関わり、「音楽」というと「芸術」に関わる。そうすると、芸術文化の方がきれいにみえる。私も沖縄で音楽文化に関わっているのでよく分かる。
- そのためには、市民が関わるのが大切。合併して広い浜松になり、まちなかの賑わいも大切だが、北遠など中山間部も含めた広い浜松で考えることが大切であり、そうすることで、いろいろな発想が生まれる。ジャンルを超えてということも、そのとおりである。「民族音楽の祭典」だというと、どこかの国の伝統音楽を誘致して、自分たちとは関係ないと思う人がいるかもしれない。私は7月1日の静岡新聞のコラムにもかいたが、浜松市が創造都市の加盟を目指すのであれば、民族音楽ではなく世界音楽を視野に入れようということを書いた。私の中ではオペラ音楽から伝統音楽、吹奏楽も合唱もすべて含む概念である。ワールドミュージックというと、一ジャンルを意味するので、世界音楽と表現したい。
- そういったこともターゲットにし、浜松市ならではの企画を考えることが大事。あとは音楽の場をどうするか。街中だけでなく、様々な場所を広げていくことが大切。
- また、産業の活性化、高等教育の問題、こうした問題は一筋縄ではいかない。文芸大の話もだが、皆様の意見というのは、とても大事であり、今後の方針に繋がる。それでは次の議題について事務局から説明をお願いします。

(3) ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野への加盟に向けて

資料3 「ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野への加盟に向けて」の説明
(事務局 鈴木) パワーポイントで説明

(4) 意見交換

(梅田部会長)

- 「創造都市を目指す」とはどういうことなのか？創造都市ネットワークへの加盟に向けて委員の色々な意見を伺いたい。

(峯委員)

- 私は35年浜松に住んでいるが、梅田先生の話聞いて、改めて「楽器のまち」と「音楽のまち」なんだという認識ができた。産業もあり、音楽もあり、楽器もあり、1個1個はとても優れているが、大事なことはそれぞれをつなぐことが大切。そうしたことで、大きなパワーにつながる。

(岡部委員)

- 「産業」というと「楽器」に結び付けて考えてしまう傾向がある。音楽関係の産業は幅広く、イベント企画から舞台演出まで多様な業種があることを前提に議論をしていきたい。

(高橋委員)

- 音楽大学も生徒確保に苦慮するようになってきており、大学によっては高校2年春休みから募集が入ってきている。また以前には無かったジャズ科やミュージカル科、サウンドデザイン、音楽ビジネスなど、時代に沿った多様な専攻が設置されている。社会変化のスピードも速い中、世の中そのものが多様化し音楽の受けとめ方も変化しており、音楽だけで創造都市を考えることはできないと思う。10年、20年先にも対応でき発展が望めるような施策が必要だと思う。「文化振興ビジョン」会議にもかかわってきているが、文化を広くとらえ産業を巻き込みながら、さまざまな分野のノウハウを結集して創造都市を構築していかなければと思う。
- また、2年ほど前から注目されている「3D プロジェクションマッピング」は音楽とアートの融合のわかり易い例だと思う。意外と知られていないが2004年、静岡文化芸術大学で外務省の後援を取り、静岡大学情報学部も参加して「音楽/芸術表現のための新インターフェース NIME 2004」という国際会議とメディアアートフェスティバルが開催されている。また「初音ミク」の「千本桜」などで人気のボーカロイドの技術も浜松にはある。
- 浜松市は文化振興財団、アクトシティ音楽院、楽器博物館などが積み上げてきたものが大きな成果となっている。将来に対応、発展していける核を考え、浮上させていければと思う。

（初村委員）

- 日本では、「小学生部門」など、部門を分けることが多い。ヨーロッパでは部門を分けず、大人も子どもも、みんな一緒に楽しむことができる。子どもの合唱団の存続が危ないと「ハーモニー」という雑誌でも記載されていた。楽器演奏活動等は産業が応援してくれるが、合唱には支援が無いので、行政の支えがないと発展していかない。
- また、都会には色々な音が溢れており、素敵な空も間ある。サウンドクリエイターの知り合いもいるが、そこに行ってみたくなるような、浜松ならではの特徴のある音風景が演出できたらいい。

（相原委員）

- 浜松は多様で素晴らしい要素がある。そうした要素が音楽と絡んでいくなど、一つ一つの要素だけではダメで、プロデュースすることが大切。創造的にするにはプロデュース力が必要。具体的メインとなるものはこれだとか、みんなでビジョンを共有することが大切。

（嶋委員）

- 音楽という目に見えないものだけで勝負していくのは、とても難しい。まちなみ、空間、使いがっのの良い音楽ホール等、「目に見えるもの」が一緒になってやっていかないと音楽そのものが育たない。いろいろな規制があっては良いものはできない。音楽だけでなく、全てが良くなっていくのが理想。専門部会も音楽部門だけでなく、他の部門も専門部会ができればいい。
- 博物館は楽器という目に見えるものだし、空間があるので、そこを素敵にすることが私の職務であり、日本だけでなく世界にアピールしていくことも一つとして考えていきたい。

（後藤委員）

- アクトが出来て20年になる。建設当時子どもだった世代が、音楽分野でも活躍する世代となってきており、昔に比べて音楽で活動する人たちが非常に多くなった。これからは繋がりが大切であり、世代間をまたいで活動することが大切だと感じる。
- また、新東名高速道路のネオパーサでは、皆さんに協力してもらって演奏会をおこなっている。全国でも珍しく、浜松ならではのことであり、とても好評である。しかしこうした活動を市民でも知らない人が多く、バラバラに活動していることで、情報が浸透せず非常にもったいない。こうした個々の事業、取り組みを繋げていくことで音楽創造都市として盛り上げていくことも大切ではないか。

（伊熊委員）

- 20年ほど昔に文化政策で議論したときに、「支える」ことが大切であると分かった。見て、楽しんで、最後に支える。文化芸術を支えるのは行政だけでは難しい。企業にもお願いして支えてもらわないと文化政策ができないということだった。
- もう一つは、頂点を目指すだけでなく、みんなで楽しんでもらうことが大事。県の事業では楽しめる舞台芸術「グランシップ」をつくった。「頂点を目指す」と「楽しむ」

の両面で考えることがキーワードになる。

- 文化・産業・人材の3つの面を融合して、音楽創造都市をどのように目指していくかが課題である。

(梅田部会長)

- すべての委員の皆様にご意見を頂いた。我々が最初にやっていかないといけないことは、創造都市の音楽部門の加盟を目指していく中で、浜松として「ビジョン」は何にするのかを決めないといけない。まず、大きなビジョンがなければ、あれをやりたい、これをやりたいで終わってしまう。個人個人で取り組んでいる音楽があると思うが、その枠を超えて、大きなビジョン・方向性を決めていきたい。
- 創造都市は音楽だけでなくデザインやクラフトなど様々な部門がある。初音ミクは札幌に取られたが、ヤマハさんのボーカロイドを使うなど、まだまだ、いろいろできる。これからの時代、音楽関係者が音楽だけの話をしていては、とり残される。音楽はいろいろなものと結びついている。視野を広げて、電子的なもの、デザインと結びつくもの、踊りと結びつくもの、それが民族芸能の中にあれば、音楽だけでなく。目に見えるものとしての「デザイン」、街でどのように音が流れるかデザインする「サウンドスケープ」など様々な音楽の形を考えていくことは、意味のある大切なこと。
- また、老若男女の様々な世代が関わっていくことも大切。演奏する側も、見る側も広い世代の人が関わるのがとても重要である。
- 「みる・つくる・支える」という言葉があったが、これから創造都市の音楽部門の加盟が決定したとしても、市がお金を援助してくれるからと考えるのではなく、市民がどうやって支えていくか、その土台づくりをしっかりしないといけない。沖縄でもそうだったが、市が永遠にお金をだしてくれるわけではない。「やらフェス」では様々なボランティアが活躍している。いろいろな方が様々なノウハウを持っている。そういった意見を聞きながら、どうやったら、市に頼るだけでなく、やっていけるのか議論していく必要がある。
- これからはやるのがたくさんある。今回、皆様の話をきいて気がついたこともたくさんある。今後、大枠を決めて、音楽部会の方向性（方針）を決めていきたいが如何か。（→異議なし）
- 議事としては以上。事務局にお返しする。

5 その他

事務連絡（事務局 鈴木）

- 次回は9月16日または18日、時間は18時、場所も庁議室を予定している。委員数も多く、委員すべてのスケジュールを確認して決めていくのは合意的ではないということで、今後は部会長と相談して、日程を決めさせていただきたい。日程はまた、決定次第、メールでご連絡さしあげる。
- 次回は、具体的な検討内容の例にもありますが、世界民族音楽の祭典や国際会議の件を具体的に話し合いたい。また、ボローニャ市との交流事業についても報告していきたい。

6 閉会